

令和元年 9月 17日 5校時

在籍 男子17名 女子11名 計28名

授業者 宮崎 美加

1 主題 勇気を出して 【内容項目 A-1 善悪の判断、自立、自由と責任】

2 本時のねらい よいと思ったことは、恐れなくて、勇気をもって行おうとする意欲や態度を養う。

教材名 「ダメ」 東京書籍

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題の指導の観点は、「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」を受けて設定している。第3・4学年では、正しいと判断したことを、自信をもって行う事につなげ、第5・6学年での「自由を大切に、自律的に判断し、責任ある行動をすること」まで高める。よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じてるところに従って、誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。特に、価値観の多様な社会を主体的に生きる上で正しいと思うことについて勇気をもって主張することは、とても大切である。それは、人間関係など様々な条件が絡んで実際には難しいことであるが、主体的な判断で行動できるよう正しいと思ったことは、行う意欲や態度を養いたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

入学してからの1学期は、学校生活に慣れるために自分の事で精一杯で、周囲や友達のことを理解することまでは難しい時期ではあるが、本学級の児童は、友達と仲良く活動できる児童が多く、友達とのトラブルもあまりなくすごしている。穏やかな性格の児童が多いこともあるが、一方、発言力の大きい児童の言いなりであったり、自分の不利益に気づかず不平等であっても何も言わず意見がぶつからないようなことも見受けられる。

(3) 教材の特質や活用方法について

4 研究主題との関わり

【研究主題】

自己の生き方を見つめ、よりよく生きようとする心の力を育む道徳教育～伝え合いから議論～

【仮説】

- ・価値について自分の考えを持ち、相手に伝えていくことができれば、自己の生き方をみつめることができるであろう。
- ・議論する活動を通して様々な考え方に触れることで、よりよく生きようとする心の力を育むことができるであろう。

【手立て】

学習方法

本時では、「ぼく」と「くまくん」の気持ちを共感できるよう、2人組で役割演技をすることを取り入れた。おt魏の言い分を言うことで、どちらもいけなかったことがあることに気付かせ、どうしたらよかったかを考えさせる。

他の活動の関連

- ・帰りの会でのスピーチや、各教科での話し合い活動などで、様々な考え方があることを知り、よりよく生きていこうとする心の力を育む。

5 学習指導計画

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 友達にしてはいけない事をしているとき、どうするかを発表する。</p> <p>○帰ったら一緒に遊ぶ話をしていたら、友達がだんだん早足になり走り出したらどうしますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に走る。</li> <li>・いけないことだから、止める。</li> <li>・友達だからなにもいわない。</li> </ul>	<p>○発表がない場合は、断るか断ることができないたで挙手をさせる。</p>
展開	<p>2 「ダメ」の前半を読んで話し合う。</p> <p>①いけないのは、「ぼく」と「くまくん」のどちらですか。</p> <p>②ぼくがとくまくんに「謝って」と言った時の2人の言葉のやり取りから気持ちを考えましょう。</p> <p>○役割演技をして二人の心情を考える。</p> <p>③二人はどうすればよかったのか考えましょう。</p> <p>正しいと思うことは勇気を出して言うことの大切さを理解する。</p> <p>④くまくんが謝って仲良くなった後半部分を読む。</p> <p>3 今までの自分を振り返る。</p> <p>「みんなが笑顔をいっぱい過ごせるためにはどうしたらいい。」これからあなたはどのようにしたいですか。</p>	<p><b>くまくん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くまくんがプリンを食べてしまったから</li> <li>・返事を聞かずに勝手に食べたから</li> </ul> <p><b>ぼく</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・でも僕も「ダメ」っていわないから・・・</li> <li>・体も声も大きいからなんでもゆずっていたから・・・</li> </ul> <p>・くまくんは、遅いから手伝ってあげたけど、・・・</p> <p>・ぼくは食べたかったのにそのときに食べないでと言わなかった。</p> <p>・くまくんは、食べていいか聞いてからにすればよかった。</p> <p>・りすくんは食べないでとはっきり言えばよかった。</p>	<p>○くまくんは、手伝ってあげて悪いことと思っていないことを押さえない。</p> <p>○隣の人と「くまくん」「ぼく」の役を交代で体験し、どちらもいけないことがあることに気づかせる。特に食べられたりすくんもその時にはっきり言わなかったことがいけないことに気付かせる。</p>

6 他の教育活動との関連

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・登場人物の気持ちを考え、友達の意見を聞き話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・言わなければいけないことは、勇気をもって言わなければならぬことに気づき、自分でもできることを探して、価値に

ついでに考えを深めている。

## 8 板書計画

くまくん

わるいことがわかった  
あやまろう

わるいとおもっていない  
ぷりんを食べた。  
てつだうといってへんじをきかない。  
いつもゆずってくれる。

くまくん  
ぼく  
くまくん

「ダメ」っていわなかっただろう。」  
「ぼくはいやだったんだ。あやまってる。」  
「わかった。わかった。」  
「ぷりんたべて、ごめんね。」

りすくん

ただしいこと  
じぶんのきもちを  
はっきりいう

くやしい・もやもや  
たべないでといえなかった。  
おおきくてこわい。  
いつもゆずっている。